

＜復活の朝＞

マルコ16：1～8



【イエスキリストを葬った墓に到着した女性たち】

安息日の翌日の朝、墓に駆けつけた女性たち

「墓の入口を塞いでいる大きな石、どうしよう・・・。」

「誰か取りのけてくれる人がいるかしら・・・？」

墓に行ったところで何もできっこない。だからやめておこうという事にならなかった。
ところが・・・！目を上げて見ると、あれほど大きな石だったのに、その石がすでにならなくなっていた。

行く手を阻む「大きな石」は転がされてあった！

◆自分の最善を尽くし、後は神におゆだねして進むときに「ところが」を
成してくださる神を私たちも知る。

女性たちは、イエスさまの復活は信じられず、死んだとしか考えられなかった。

マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。 マルコ15：47

イエスさまは確かに死んだ。もう会うことができない。

深い喪失感と悲しみを抱えて家に帰った。

イエスは言われた。『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか』

ヨハネ 11:25～26

- ◆死は終わりではない。死は復活に飲み込まれた。死は新しいいのちの始まり。クリスチャンは毎週の礼拝でこのことを鮮明にし、主を礼拝する。

ラザロの死を悲しむ者にイエスさまは「信じるか」と語られた。

イエスは涙を流された。 ヨハネ 11:35

- ◆イエスさまご自身も、愛する者を失う心の痛みと、死に対する憤りをご自身が身をもって深く味わった。その上で、父なる神のみこころに従って、十字架にかかり、死によって分かたれる悲しみや、私たちを苦しめる罪と死とをその身に引き受けてくださった。

もし、あなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、と私は言ったではありませんか。

ヨハネ 11:40

- ◆イエスさまが望んでおられたのは、ご自分が死の征服者であることを信じるようになること。

しかし、助け主、すなわち父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

ヨハネ 14:26

- ◆聖霊は生活の様々な場面で「真理」を紐解いて下さり、みことばに確信を持って生きる者にして下さる。

ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』とそう言いなさい。 【7節】

- ◆ガリラヤはイエスさまを信じて弟子となった自分達の出発点。そこでイエスさまが待っている。